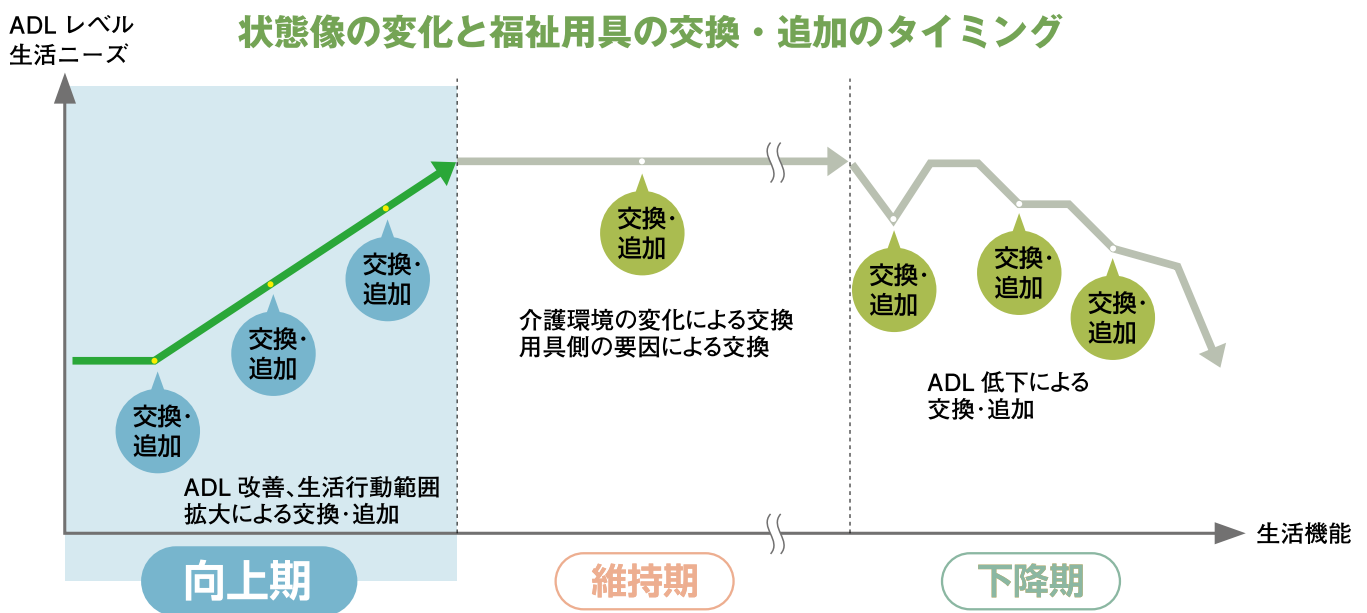


# 2

## 在宅生活における 状態像の変化

利用者の状態像に変化が生じる時期は、

- 1 身体機能の改善等にもなう生活機能向上期
- 2 生活機能維持期
- 3 身体機能低下等による生活機能下降期に大別されます。



### 生活機能向上期

#### 身体と生活の変化をキャッチして、段階的な用具の変更を!

脳卒中などの急性発症性疾患では、退院後も身体機能の改善向上がみられ、自宅で生活環境に適した生活動作が獲得されます。また、腰痛や肺炎などをきっかけとした臥床による廃用性の機能低下は、適切な機能訓練等を実施することにより徐々に活動性が向上します。このように生活機能が向上する時期が生活機能向上期です。身体機能の変化を的確にキャッチして、移動支援用具の変更を検討します。

何らかの疾病により入院加療を経て退院した人を例にすると、一般的には退院した直後から生活全般の活動が実行可能になるのではなく、生活に慣れていくにつれて、日常的に継続可能な活動範囲が拡大していきます。

## 行動範囲の広がり



生活機能向上期の活動範囲の拡大には、「自宅内の生活空間の拡大」と「家から外に出る行動空間の拡大」の2つの方向があります。

### 1 自宅内の生活空間の拡大

寝室などのひとつの室内における移動から室間における移動をさしています。具体例としては、入浴サービスから、自宅の浴室を利用するようになる、ヘルパーの家事援助を受けていた方が、自分で簡単な食事を準備するために食堂に行く、洗ってもらった洗濯物を取り込むためにベランダに行くといった場合です。

### 2 家から外に出る行動空間の拡大

自宅の玄関先で近所の人と会話していた方が、家の周りを散歩する、送迎付きでデイサービスを利用する、ヘルパーと買い物に行く、単独で老人会に参加するなど、徐々に活動的な外出活動に向かうものです。

生活機能向上期は、歩行能力に加えて移動範囲や外出先など、生活ニーズを的確に捉えて、移動支援用具が提供されるべきであり、用具の選定と見直しが繰り返し行われる時期と言えます。

### ここがポイント!



生活ニーズの拡大に伴う用具交換・追加は2つのパターンがあります。いずれの場合も用具を交換・追加することで活動性や生活範囲の拡大や効率化が期待されます。

- 1 移動能力の改善に伴い、用具によって補填される機能を軽微なものに交換する場合**  
身体機能の改善が見られるため、現状の歩行に必要な免荷量や基底面の広さなどを考慮して、「歩行車から多脚つえ」、「多脚つえからT字つえ」というように、つえの種類を交換する場合があります。
- 2 生活範囲が拡大し、初めての生活場面に対応するため新規に用具を追加する場合**  
トイレ用手すりを新たに設置することでつえや歩行器などの代用とする場合、あるいは、屋内ではつえや歩行器を使用しているが、外出する時は車いすを利用してスピードや耐久性などの利用者の身体機能を補填するような場合があります。